

子どもの本だな 65

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

### わたしとあそんで

マリー・ホール・エッツ ぶん・え

よだ じゅんいち やく (福音館書店)

朝日がのぼり、草にはつゆが光りました。わたしは、はらっぱへ遊びに行き、ばつたを見つけました。「ばつたさん、あそびましょ。」わたしがつかまえようとする、ばつたはぴょんととんで行ってしまいました。かえるやかめも、声をかけるとみんな逃げてしまいます。だれも遊んでくれないので、わたしは池のそばの石に腰かけました。音を立てずにじっとしていると、ばつたが戻ってきて草の葉に止まりました。かえる、かめ、りす、かけす、うさぎ、へび、もう誰も怖がって逃げたりしません。そして鹿の赤ちゃんがそっと近寄り、わたしのほっぺたをなめました。

クリーム地にクレヨンの線、色は黄と橙と白だけのシンプルな絵は優しく、春を感じさせるお話にぴったりです。動物たちにかこまれて、微笑むわたしの大きな喜びが伝わります。

3歳くらいから。

(池之上)

### ドリトル先生航海記

ヒュー・ロフティング 作 井伏 鱒二 訳 (岩波書店)

トミーは、けがをしたリスを診察してもらおうと、ドリトル先生を訪ねました。道中、激しい夕立にあい、雨宿りすることになった小さな家には、アヒルや犬、ブタ、両頭動物などたくさんの動物が暮らしており、この家の主人こそ、医学博士にして動物話が話せる博物学者ドリトル先生だったのです。トミーは、先生の助手としてこの家に住むことになり、動物話を覚えてゆきました。ある時、トミーの友人、世捨て人のルカが殺人の疑いをかけられて捕まりました。裁判が始まると、先生は、ルカの愛犬を証人に立てて通訳し、ルカの無罪を証明したのです。先生は、博物学研究のためトミーやポリネシアたちとともに航海に出発し、漂流する島クモサル島に到着。行方不明になっていた大博物学者を救出し、病気の治療や住民の暮らしを改良するなど、大活躍しました。

想像力とユーモアにあふれた文章から、動物にも人間にも慕われる先生の温かい人柄が伝わります。

10歳くらいから。

(片木)

3月	4月	3・4月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
7日	11日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
14日	18日			原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
21日	25日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~15:50	吉福 公民館 16:00~16:30

### <お知らせ>

#### 野鳥講座—身近な鳥のお話—

太子町でもたくさんの種類の鳥が観察できます。写真がとれた鳥の姿を見ながら、身近な鳥のお話を聞きましょう。おはなしは、恐竜から鳥への進化から始まります。

- 日時：3月24日(日) 10:00~12:00
- 講師：三木敏史さん (日本野鳥の会会員)
- 場所：あすかホール ミニシアター
- 定員：65名 (要申込)
- 対象：小学4年生~大人まで
- 申込：太子町立図書館まで

# 『グッバイ・クリストファー・ロビン』 『クマのプーさん』の知られざる真実

アン・スウェイト 著 山内玲子・田中美保子 訳 国書刊行会 331頁 2018年8月刊 2,700円 (請求記号) 930.2

本書は著者アン・スウェイトの1990年の著作『A.A.ミルンその生涯』(未訳)を親本とし、作家として想像以上の成功の試練を受けたミルンとその家族、そして周辺の人たちの物語である。

子どもの本を著す前のミルンは、英国雑誌の頂点「パンチ誌」の副編集長を経て、既に著名な劇作家・文筆家であった。息子と過ごす時間を大切にしていたミルンは、原稿の題材はないかと考えるうち、息子と遊ぶ詩なら世に出してもいいのでは、と思い始める。優れた子どもの文学は、自分自身を楽しませるために書かなければ良いものにならないと熟考を重ねた。そして出版された詩集『クリストファー・ロビンのうた』(1924年刊)は3〜4歳の子どもにも容易に理解できる言葉を使いながら、おとなも楽しめるというミルンの才能、手練の技を駆使したものだった。これは英米で絶賛され、続く4年間に出版された物語2冊と詩集1冊は、いずれも記録的な売り上げとなる。ところが、主人公クリストファー・ロビンと同一視された息子のロビンは一躍有名人になり、このことが原因で傷つくことになってしまう。ミルンにとつては息子や妻、兄一家と楽しみながら、画家シェパードと森を歩いて挿絵を決め、大きな喜びを感じた創作だったが、その反響のもたらしたものに戸惑うことになったのだ。

一方、この本には多くの評価も記されている。現在でも楽しまれている『クマのプーさん』の永続性は、徹頭徹尾ストーリーテリングとして成功している事であり、子どもはプーの中に自分を見つけ、同時にクリストファー・ロビンの中になりたい自分、なりそうな自分を見つめる。そしてウィットとやさしさに気づいて楽しむ。プーの本を読んだ子どもは、人間の性格に対する洞察を大人になっても持ち続けることができるのだ。多くの翻訳にたずさわった石井桃子は95歳の時『クマのプーさん』の翻訳こそが心の奥深く残り続け、自分が成し得た事を心底喜んでる作品だ」とアン・スウェイトに語ったそうだ。これからもプーの本に、たくさんの子どもが会おうことを願っている。

(西村)

## 3月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	<del>5</del>	6	7	8	9
10	11	<del>12</del>	13	14	15	16
17	18	<del>19</del>	20	21	<del>22</del>	23
24	25	<del>26</del>	27	28	29	<b>30</b>
31						

## 4月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
1	<del>2</del>	3	4	5	6	
7	8	<del>9</del>	10	11	12	13
14	15	<del>16</del>	17	18	19	20
21	22	<del>23</del>	24	25	<b>26</b>	27
28	29	<del>30</del>				

毎週土曜日に

「おはなしの時間」を開いています。

- ・4歳〜2年生 11:00〜
- ・3年生〜中3 11:30〜

3月のおはなしは「ジャックとマメの木」「梅の木村のおならじいさん」などを予定しています。詳しくはプログラムをご覧ください。

\*カレンダーの×印は休館日

\*■は館内整理日

返却のみ受付(10:00~17:00)

\*開館時間は10:00~18:00

金曜日は20:00まで開館

## 地下水

お気づきの方もあるかもしれないが、図書館の照明がすべてLEDに変わった。事務室や書庫は明るい白色、児童室は暖かいオレンジ色、一般開架室はその中間と、雰囲気もそれぞれに合わせてある。これまでは、蛍光灯が弱って点滅し始めても、高い脚立を持ち出して二人がかりで替えるので、すぐには替えられず、利用者の方にはご不便をおかけしていた。LEDは10年程もつらしいので、当分の間は安心だ。

ところが、次は読書会室の水漏れ。雪が降った日、壁の下の隙間から水がしみだし、みるみる床じゅう水浸しになった。その日は、雑巾でしばってはふきとり、何とか乾かしたが、次の雨降りの日、またもや水浸しに。休館日だったが、様子を見にきた職員Tさんと2人で水を集めては外へ押し出し、雑巾でしばってはふきとり続けた。雨が止むのを願いながら。後日、天井に点検口を開けて見てもらったところ、排水パイプが割れて水が噴き出しているとのこと。応急処置をして様子を見ているところだが、次の雨の日が怖い。

図書館も築36年も経つと、色々な所がもろくなっているに違いない。大地震はこないでほしい。

(池田)

